

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定調印式(3) (ロジスティックス、警備、プレス、写真)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43566

全
般
的
經
緯

秘
無期限

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

沖縄返還協定署名式について

46. 6. 24
北米第一課
17 米側 (ロンドン) 及び 2 (2) の
と、史上初の試みとしてテレビ宇宙中継による日米同時
署名方式により取り行われ、(1) フォンソック
の、(2) 月島主務、(3) 主務の趣に同する

1. 署名式

署名式は、(1) 経緯については、別添 1 及び
757

別添 2 参照。

2. 署名式

(1) 沖縄返還協定の署名式は、6月17日午後
9時より佐藤総理大臣以下全閣僚並に
関係者、米側マイヤー駐日大使並に

在日米軍首脳者及び沖縄より高橋準備
部長、日本国政府代表、星琉球立法院議長

他並にランパート高等弁務官等が参列し、
約40分間にわたり挙行された。(式次第

出席者、調印式場については、別添 3、4 及
び 5 参照)

(3) 署名の手順等について
(別添 6 参照)

(2) 署名式テレビ宇宙中継

署名式は東京、ワシントン両地テレビ宇宙中
継により行われ、協定及び関連文書は日

本側要知外務大臣、米側はロジャーズ國務
長官及びマイヤー駐日米大使により日米同

時に署名された。

3. 東京-ワシントン間の直通電話の架設

署名式の円滑な進行を図るため、東京-
ワシントン間(総理官邸-外務省-米國

務省)に直通電話を架設し、日米双方の
緊密な連絡を確保した。

4. 警備関係

署名式挙行に当り、総理官邸及び署名

式出席者の警護につき、数回にわたり
警備本部と協議し、警護の万全を期した。

5. 70212-11

沖縄島の署名式出席者は琉球立法院

議長他及びラポート高年并若高他の空
港における便宜供与については当課の

儀典官室より関係当局に手配した。

1

当初の日程については通知外大臣の指図

利6A - 日頃^には御用掛の各機関

所にて作成(月日 今迄)、5月28日

今迄におよぶ未創刊 上陸戦等一対下程

所記。6A^の角は休戦後^の米軍の

所記及び^の6A15日以後、記録^の、

及び^の署名^のと^の、^の署名^の

の^の如何^のに^の投^の呈^の送^のした。

極 秘
無 限
部 内
予

別添1

アメリカ局長
参事官
北米第一課

~~ニクソン大統領の署名式出席
問題について (経緯)~~

46. 6. 11

ニクソン大統領の署名式出席問題

1. 5月28日朝 中嶋大使より：中流と関係
に署名式出席の可否-2. 長官の意向

(6月15日以降、ワシントン東京の同時署名式
出席中継の可否、長官の意向) につき

連絡あり。

同28日午かれた 参事官・マイヤ一介様は

あり。長官より (1) 出席可否の意向
を承知し (2) 出席式 経緯以下 について

GA-5

外務省

5. 11

2

一致に歓迎し、且つ米側の意向に謝意
を表明した旨を述べた。(1) 署名式の日取

りについては17日を提案したと共に、(2) 署名式
にはワシントンには短時間ありとも

ワシントンに出席しない旨を
以て希望する旨を述べた。

これに対し大統領は日建を17日に取り次
ぐべきと、東京の意向を述べた。

以上旨を述べた。

2. 6月2日午かれた 参事官・マイヤ一介様
には、大塚より、長官の意向

ニクソン大統領の署名式出席の可否
を是非論を述べたこと、大塚は

長官の意向を述べた旨を述べた。

GA-6

外務省

3. 6月2日 協定調印に付、在野の團の
 米例と打合せに付、吉井(米例一
 第1回)
 新道局長以下)より、米例(24222)在野に
 手紙を打合せに付、向野記者)に付、
 吉井計らと、飯布と受了て、米例の
 第2回。二ツツ長統領、道達、米例
 米例(米例一) (米例二) 米例調印式に
 米例(米例一) 米例(米例二) 米例(米例三)
 米例(米例四) 米例(米例五) 米例(米例六)
 米例(米例七) 米例(米例八) 米例(米例九)
 米例(米例十) 米例(米例十一) 米例(米例十二)
 米例(米例十三) 米例(米例十四) 米例(米例十五)
 米例(米例十六) 米例(米例十七) 米例(米例十八)
 米例(米例十九) 米例(米例二十) 米例(米例二十一)
 米例(米例二十二) 米例(米例二十三) 米例(米例二十四)
 米例(米例二十五) 米例(米例二十六) 米例(米例二十七)
 米例(米例二十八) 米例(米例二十九) 米例(米例三十)

4. 6月8日 米例の調印に付、米例の
 米例(米例一) 米例(米例二) 米例(米例三)
 米例(米例四) 米例(米例五) 米例(米例六)
 米例(米例七) 米例(米例八) 米例(米例九)
 米例(米例十) 米例(米例十一) 米例(米例十二)
 米例(米例十三) 米例(米例十四) 米例(米例十五)
 米例(米例十六) 米例(米例十七) 米例(米例十八)
 米例(米例十九) 米例(米例二十) 米例(米例二十一)
 米例(米例二十二) 米例(米例二十三) 米例(米例二十四)
 米例(米例二十五) 米例(米例二十六) 米例(米例二十七)
 米例(米例二十八) 米例(米例二十九) 米例(米例三十)

米例(米例一) 米例(米例二) 米例(米例三)
 米例(米例四) 米例(米例五) 米例(米例六)
 米例(米例七) 米例(米例八) 米例(米例九)
 米例(米例十) 米例(米例十一) 米例(米例十二)
 米例(米例十三) 米例(米例十四) 米例(米例十五)
 米例(米例十六) 米例(米例十七) 米例(米例十八)
 米例(米例十九) 米例(米例二十) 米例(米例二十一)
 米例(米例二十二) 米例(米例二十三) 米例(米例二十四)
 米例(米例二十五) 米例(米例二十六) 米例(米例二十七)
 米例(米例二十八) 米例(米例二十九) 米例(米例三十)

5. 6月11日 米例の調印に付、米例の
 米例(米例一) 米例(米例二) 米例(米例三)
 米例(米例四) 米例(米例五) 米例(米例六)
 米例(米例七) 米例(米例八) 米例(米例九)
 米例(米例十) 米例(米例十一) 米例(米例十二)
 米例(米例十三) 米例(米例十四) 米例(米例十五)
 米例(米例十六) 米例(米例十七) 米例(米例十八)
 米例(米例十九) 米例(米例二十) 米例(米例二十一)
 米例(米例二十二) 米例(米例二十三) 米例(米例二十四)
 米例(米例二十五) 米例(米例二十六) 米例(米例二十七)
 米例(米例二十八) 米例(米例二十九) 米例(米例三十)

世一也。
この署名式（署名式）は、その大分

は、従来の調印式に出席するが、そのこと
が、その署名による線画とすることがある

この点、署名は本心でして、その署名は
「本心で、その署名は」

6. その後、本個人用三、どく促して、その署名は、
署名は、6月16日にあって、その署名は、

署名は、その署名は、その署名は、
署名は、その署名は、その署名は、

署名は、その署名は、

署名式
屋良主席の出席問題

屋良主席に対しては、日本国政府の名において
正式に署名式に参加を要請したが、沖

縄においては主席の上京に反対する声が強め
て根強く、かつ、強力であって主席が署名

式に現地の反対を排除して上京を決定
すれば流血をみるに至る恐れを以て

上京出席は遠慮したい旨主席に申し述べ
た。6月16日訪沖した竹内政務次官

は、同主席に対し外務大臣よりメッセージ
として署名式に参加を強く要請したが

署名式は、
に対して、日本国政府の署名式参加招請に
ついては重々承知しているが、種々の事情

（沖地は）
があり、これにたいしては、署名式に
不参加とする

署名式のテレビ中継

署名式は、琉球政府より議長沖縄復帰準備委員会
顧問代理が署名式に参加して。外務省

式次第

一 着席

(一) 九時

総理、官房長官、愛知大臣並びにマイヤー大使以外の出席者（日米双方）は、八時五十五分各控室より式場へ向い、九時までに着席。

(二) 九時四分五十秒

総理、官房長官、愛知大臣並びにマイヤー大使は九時四分三十秒に入場し、九時四分五十秒までに着席。

総理は総理席、官房長官及び愛知大臣は閣僚席、またマイヤー大使は米側席前列の大使席に着席。

二 写真撮影

（九時五分より九時七分三十秒まで）二分三十秒間

別添

三 国歌吹奏

（九時七分三十秒から九時九分五十五秒まで）二分二十五秒

（進行係）「ただ今より沖繩返還協定の調印式が開始されます。国歌吹奏を行ないますので、御起立願います。」

（両国国歌吹奏）

（君が代、米国歌の順。それぞれ四十五秒、一分十八秒。）

（進行係）「御着席願います。」

四 ロジャーズ長官及び愛知大臣による開会の挨拶

（九時十分より九時十七分まで）各三分三十秒、計七分

（注：米国内ではこれよりテレビ放映開始の予定）

○九時十分より九時十三分三十秒まで）三分三十秒

（進行係）「調印に先立ち、ロジャーズ國務長官及び愛知外務大臣より御挨拶がございます。」

(ロジャーズ長官)「スピーチ台へ。同時通訳。」

「.....」

○九時十三分三十秒より九時十七分まで(三分三十秒)

(進行係)「外務大臣どうぞ。」

(愛知大臣)「閣僚席より日本側スピーチ台へ。同時通訳。」

「.....」

(終了後閣僚席へもどる。)

五 協定調印

(九時十七分より九時十八分三十秒まで(一分三十秒))

(進行係)「日本側愛知外務大臣、米側ロジャーズ國務長官により協定へそれぞれ署名が行なわれます。」

(愛知大臣及びマイヤー大使は、それぞれ閣僚席並びに大使席より調印台へ移る。)

(愛知大臣、ロジャーズ長官、協定へそれぞれ署名する。)

六 佐藤総理挨拶(同時通訳)

(九時十八分三十秒より九時二十二分三十秒まで(四分))

(進行係)「調印は無事終了いたしました。引き続き佐藤内閣総理大臣の御挨拶がございます。」

(佐藤総理)「日本側スピーチ台へ。同時通訳。」

「.....」

七 ニクソン大統領挨拶(未定。同時通訳)

(九時二十二分三十秒より九時二十四分(二分))

(進行係)「ここでニクソン大統領の御挨拶がございます。」

(ニクソン大統領)「.....」

ハ 愛知大臣、マイヤー大使によるその他の文書署名

(九時二十四分三十秒より九時三十二分三十秒まで)八分)

(進行係)「引続きその他の関連文書への署名が愛知大臣とマイヤー大使の間で行なわれます。」

(愛知大臣、マイヤー大使署名する。)

九 愛知大臣及びマイヤー大使スピーチ

(九時三十二分三十秒より九時三十三分三十秒まで)一分)

(進行係)「これにて沖繩返還に関する日米間の合意文書の調印はすべて終了いたしました。これより愛知外務大臣、マイヤー大使より一言ずつ御挨拶がございます。」

(愛知大臣) (愛知大臣は調印台より日本側スピーチ台へ。同時通訳)

「.....」

(終了後閣僚席へ。)

(九時三十三分三十秒より九時三十七分三十秒まで)四分)

(マイヤー大使) (マイヤー大使は調印台から米側スピーチ台へ。同時通訳。式場では日本語訳テキスト配布。)

「.....」

(終了後米側席前列の大使席へ。)

一〇 乾杯 (佐藤総理の音頭) (総理は総理席で御起立の上発声。同時通訳)

(九時三十七分三十秒より九時三十九分三十秒まで)二分)

(進行係)「佐藤総理の御発声により乾杯が行なわれます。」

(この間出席者全員にシャムペンダラス配る。全員起立。)

(佐藤総理)「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(乾杯する。)

(進行係)「以上をもちまして調印式は終了いたしました。皆様の御協力に感謝いたします。」

別添

別添

日本側出席者

- | | |
|-----------|---------------|
| ○ 総 理 | ○ 星 立法院議長 |
| (閣僚席) | ○ 平田首席判事 |
| 1. 外務大臣 | ○ 瀬長復博準備北顧問代理 |
| 2. 官房長官 | (第2列) |
| 3. 総務長官 | 19. 木村副長官 |
| 4. 法務大臣 | 20. 小池 " |
| 5. 大蔵大臣 | 21. 湊 " |
| 6. 文部大臣 | 22. 栗山 " |
| 7. 厚生大臣 | 23. 竹内外務政務次官 |
| 8. 農林大臣 | 24. 森外務事務次官 |
| 9. 通産大臣 | 25. 岡部対策庁長官 |
| 10. 運輸大臣 | 26. 高瀬大使 |
| 11. 郵政大臣 | 27. 東郷大使 |
| 12. 労働大臣 | 28. 吉野アメリカ局長 |
| 13. 建設大臣 | 29. 井川条約局長 |
| 14. 行管長官 | 30. 新井法制局3部長 |
| 15. 防衛長官 | 31. 翁首席参事官 |
| 16. 経企長官 | 32. 中島条約課長 |
| 17. 科技長官 | 33. 総理秘書官 |
| 18. 法制局長官 | 34. " " |
| | 35. " " |
| | 36. " " |
| | 37. " " |
| | 38. " " |
| | 39. " " |

(進行係 千葉北米第一課長)

別添

米側出席者

46. 6. 17. 現在

米側出席者(前列着席者序列)

1. Ambassador Armin H. Meyer
2. Minister Richard L. Sneider
3. Lieutenant General James P. Lampert, United States Army
4. Lieutenant General G. M. Graham, United States Air Force
5. Mr. Alan Carter, Minister-Counselor for Public Affairs,
6. Vice Admiral Walter L. Curtis, United States Navy
7. Major General Richard M. Lee, United States Army
8. Mr. Howard Meyers, Political/Military Counselor
9. Mr. William C. Sherman, Political Counselor
10. Mr. Peter W. Lande, Economic Counselor

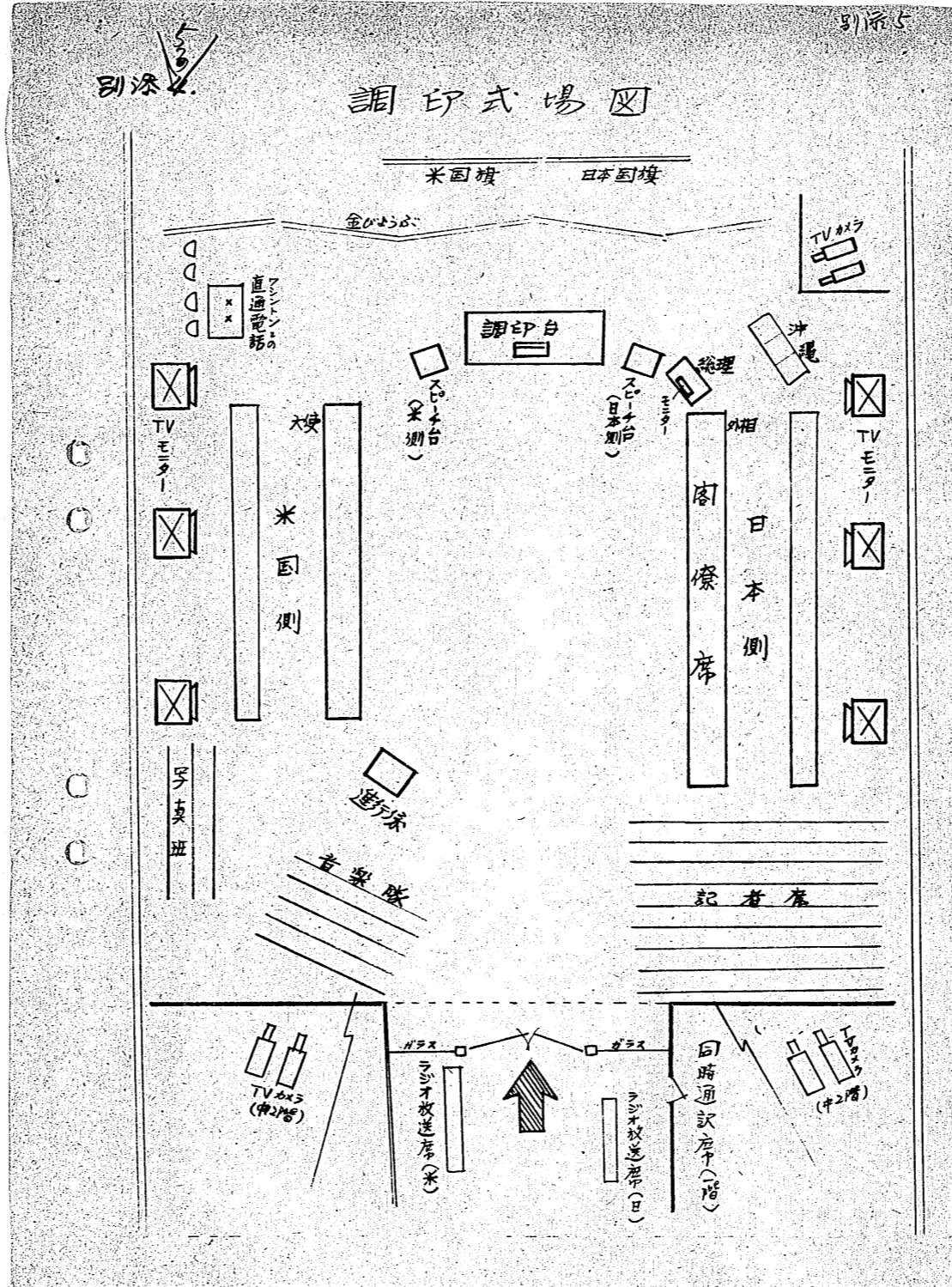
米側その他出席者(後列. 順不同)

- 在京米大使館
 - Mr. Charles A. Schmitz, Legal Adviser
 - Mr. W. Lawrence Dutton, Jr., First Secretary
 - Mr. James J. Wickel, Special Assistant
 - Mr. Dalton V. Killion, Second Secretary
 - Mr. Thomas Parker, Jr., Second Secretary
 - Mr. David I. Hitchcock, First Secretary
- 沖繩遠東交渉軍事顧問団
 - Colonel C. Griffin Moody, United States Marine Corps
 - Captain Robert J. Harlow, United States Navy
- 在日米軍
 - Colonel Charles S. Townshehd, United States Air Force
- 沖繩
 - Colonel John A. Meads, Jr., United States Army
- 国務省
 - Mr. Charles Bevans, State Department

別添

別添5

調印式場図



別添6

別添6

署名の手順等

4.6.6.16

I 署名式で署名すべき文書

(大臣署名箇所)

1 (1) 協定 (英・和各1箇所)

(2) 合意議事録 (英・和各2箇所)

(3) VOA公文 (和 / 箇所)

(4) 海没公文 (和 / 箇所)

国会に参考提出

関連文書

2 施設了解覚書 (英・和各2箇所)

(その他の関連文書)

(注1 外資レターは、事前に署名のうえ、署名式と関係せず
に手交。日付は、17日)

(注2 航空覚書は、吉野局長・スナイダー公使間で別途署名。
日付は、17日)

II 関連文書の署名手順

(1) 合意議事録 (日本側分) ←米側へ

(2) 合意議事録 (米側分) ←米側より

(3) 日本側覚書 2

(4) 施設了解覚書 (日本側分) ←米側へ

(5) 施設了解覚書 (米側分) ←米側より

(6) 署名済み文書一括交換の握手

III 署名道具

(1) ペン・インキつぼ等 2組

(2) すずり箱

樹築室で取りそろえる。

IV シール

(1) 道具及び人員は、外務省より。

(文書課2名、樹築室2名、柳井立会い。)

(2) 場所：官邸2階の1室を留保済み。

V 署名立会い

(1) 協定 (大臣) 柳井

(2) 関連文書 (大臣側) 柳井

(大使側) 有馬